

## 第4節 中央アジア・コーカサス

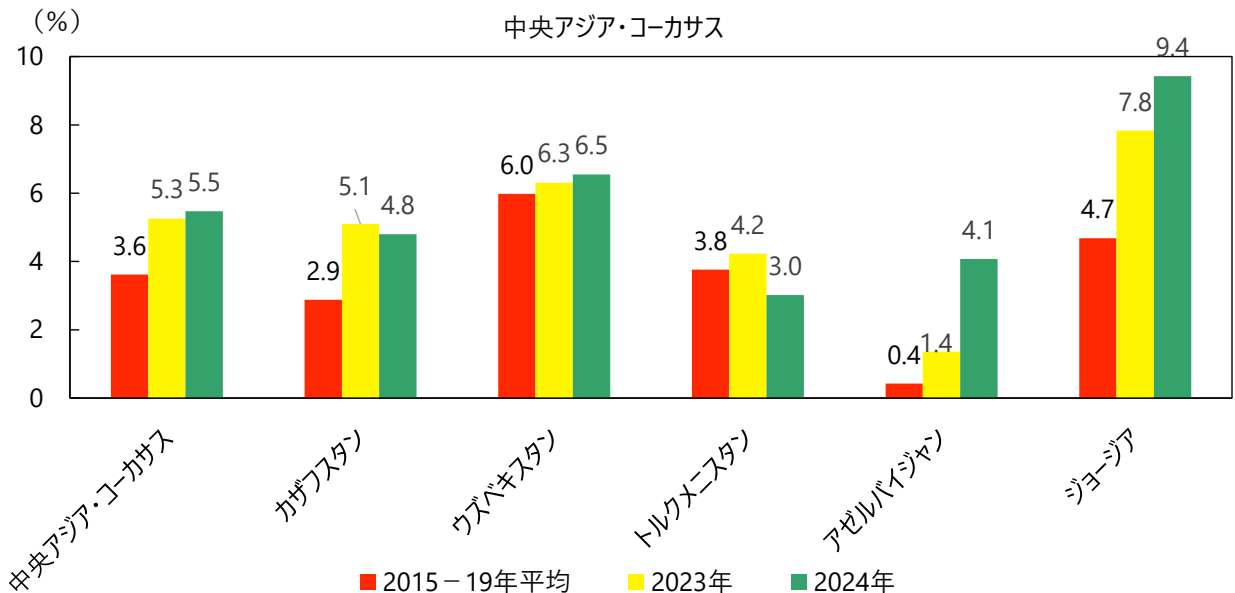
### 1. GDPの動向

第1-3-4-1図は、中央アジア・コーカサスの国々のGDP成長率を示している。中央アジア・コーカサスについては、ジョージアが2015-2019年平均で4.7%、2023年に7.8%、2024年に9.4%と高い成長を堅持しているほか、ウズベキスタンも持続的に6%程度の成長を続けている。

第1-3-4-2図は、IMFによるこれらの国々の実質GDP成長率の見通しを示している。いずれの国も右肩上がりの成長が予想されており、特にジョージア、ウズベキスタンは同地域における他の国々と比較しても高い成長率が予想されている。

第1-3-4-3図は、一人当たりGDPを示している。いずれの国も上昇トレンドが見て取れる。ジョージアは2020年頃から急速に上昇している。特にカザフスタンやジョージアの成長が著しい。

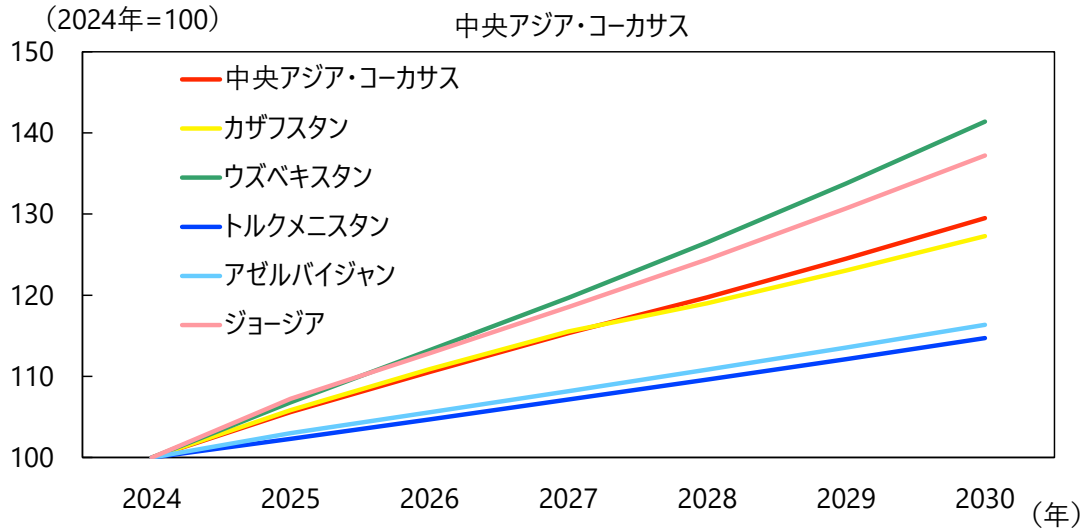
第1-3-4-1図 中央アジア・コーカサスの実質GDP成長率



備考：「中央アジア・コーカサス」については、本章で定義した地域区分の国及び地域についてIMF「WEO」の各国GDP成長率からGDP (PPPベース)でウェイト付けした上で推計。IMF「WEO」のデータ制約により、カザフスタンの実績は2023年までであり、2024年は推計値。

資料：IMF「WEO」(2025年10月)から作成。

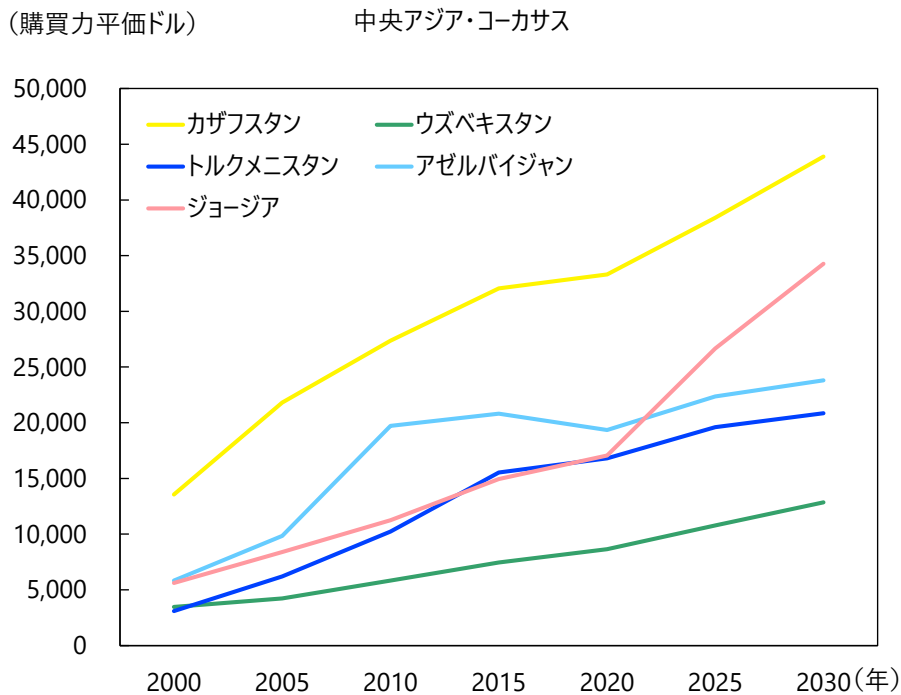
第 1-3-4-2 図 中央アジア・コーカサスの実質 GDP 予測



備考：「中央アジア・コーカサス」については、本章で定義した地域区分の国及び地域について、IMF「WEO」の各国 GDP 成長率から GDP (PPP ベース) でウェイト付けした上で推計。

資料：IMF「WEO」(2025年10月) から作成。

第 1-3-4-3 図 中央アジア・コーカサスの一人当たり GDP



備考：IMF「WEO」のデータ制約により、カザフスタンの実績は2023年までであり、2024年以降は推計値。それ以外の国は2024年までが実績であり、2025年以降は推計値。2026年1月29日時点データ。

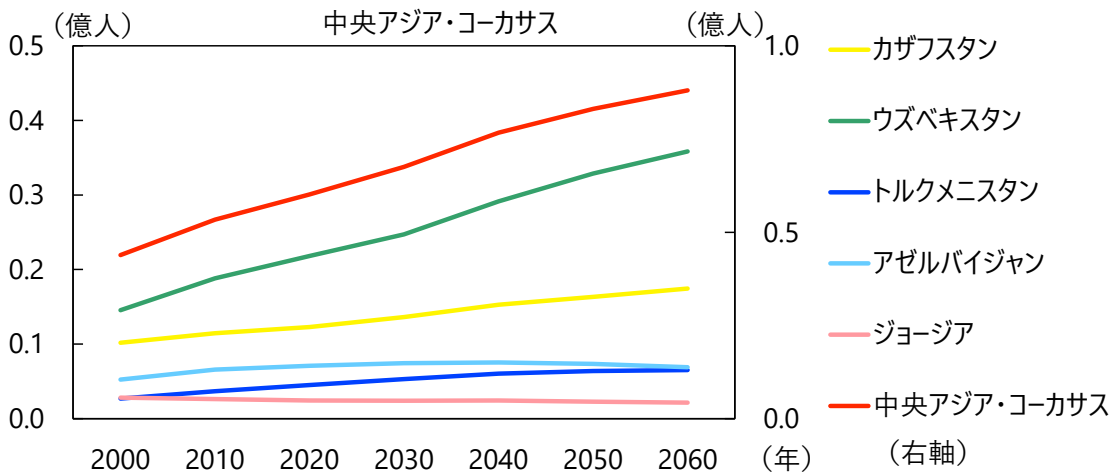
資料：IMF「WEO」(2025年10月) から作成。

## 2. 人口の動向

第 1-3-4-4 図は、これらの国々の生産年齢人口の動向を示している。ウズベキスタンなどは、2060 年まで生産年齢人口が増加する見込みである。ジョージアの生産年齢人口は1988 年がピークで、その後減少している。国連人口部によると、引き続き緩やかな人口減少が続くと見込まれている。

第 1-3-4-5 図は、合計特殊出生率を示している。上記で見てきた地域と比較すると、おおむね横ばい傾向にあることが見て取れる。ジョージアは1985 年をピークとして1993 年には同出生率は2 を下回った。その後、2014 年から2019 年にかけて2 を上回ったが、2020 年以降再度2 を下回った水準で推移している。国連人口部によると、引き続き緩やかな減少が続くと見られている。

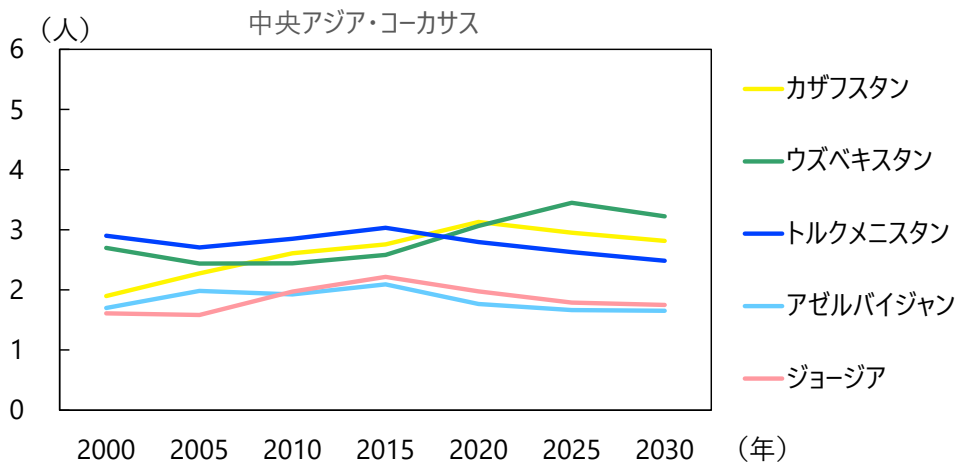
第 1-3-4-4 図 中央アジア・コーカサスの生産年齢人口



備考：「中央アジア・コーカサス」については、本章で定義した地域区分の国及び地域一覧を合算し推計。本データは中位推計。当該期間は予測期間を含む。2026 年 2 月 2 日時点データ。

資料：国連「World Population Prospects 2024」から作成。

第 1-3-4-5 図 中央アジア・コーカサスの合計特殊出生率



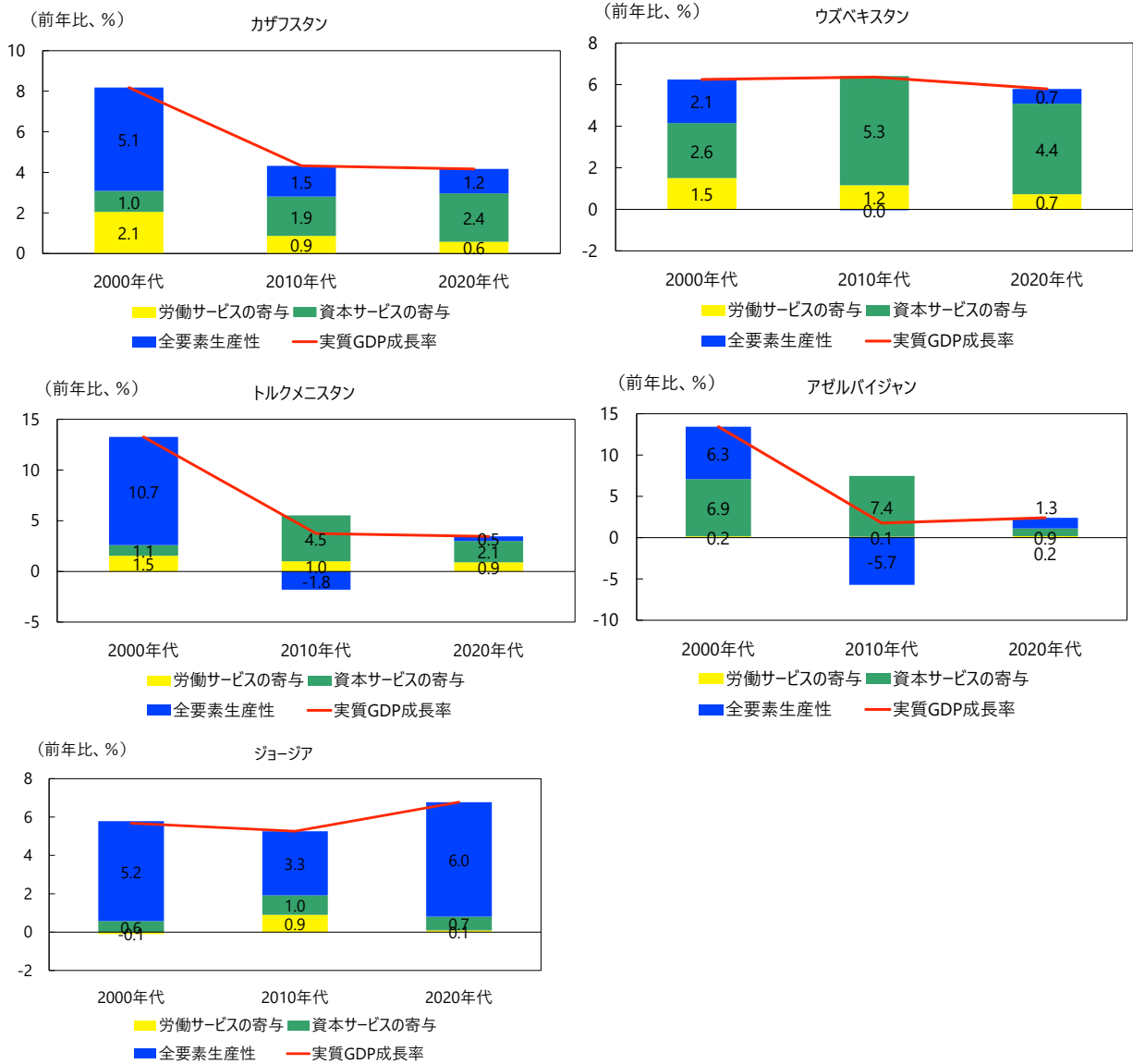
備考：当該期間は予測期間を含む。

資料：国連「World Population Prospects 2024」から作成。

### 3. 成長会計

第1-3-4-6図は、中央アジア・コーカサスにおける成長会計を示している。カザフスタンとウズベキスタンは、近年、資本の寄与が大きく、ジョージアは生産性の向上が成長に大きく寄与している。これらは、中央アジア・コーカサスの国々がどのように成長をしているかを示している。

第1-3-4-6図 中央アジア・コーカサスの成長会計



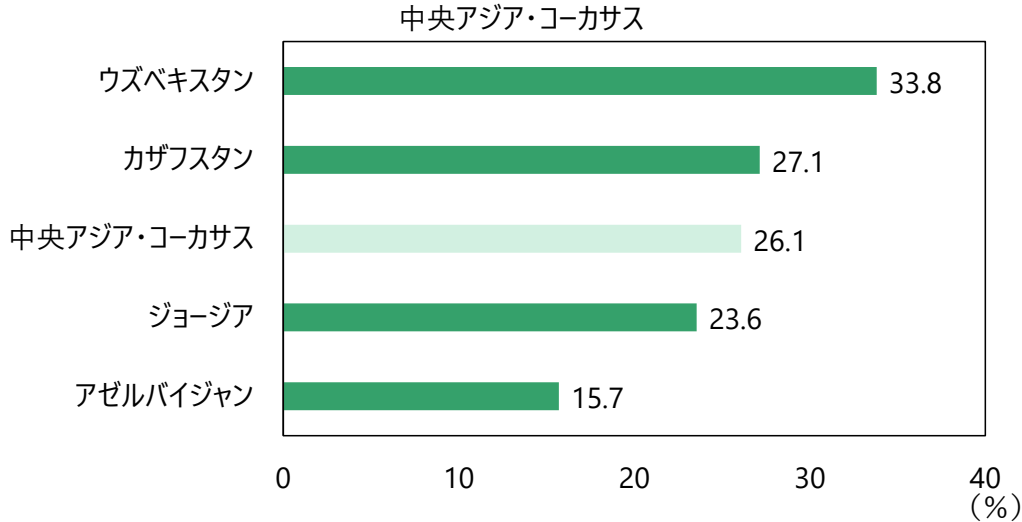
備考：2020年代は2023～2025年のデータを指す。2020年～2022年はコロナの影響を踏まえ、推計から除いている。  
資料：コンファレンスボードから作成。

### 4. 資本形成

第1-3-4-7図は、中央アジア・コーカサスにおける総資本形成比率を示している。ウズベキスタンの総資本形成比率が特に高く、活発な投資状況がうかがえる。他方で、アゼルバイジャンは、足下ではこれらと比較して低い総資本形成比率となっている。

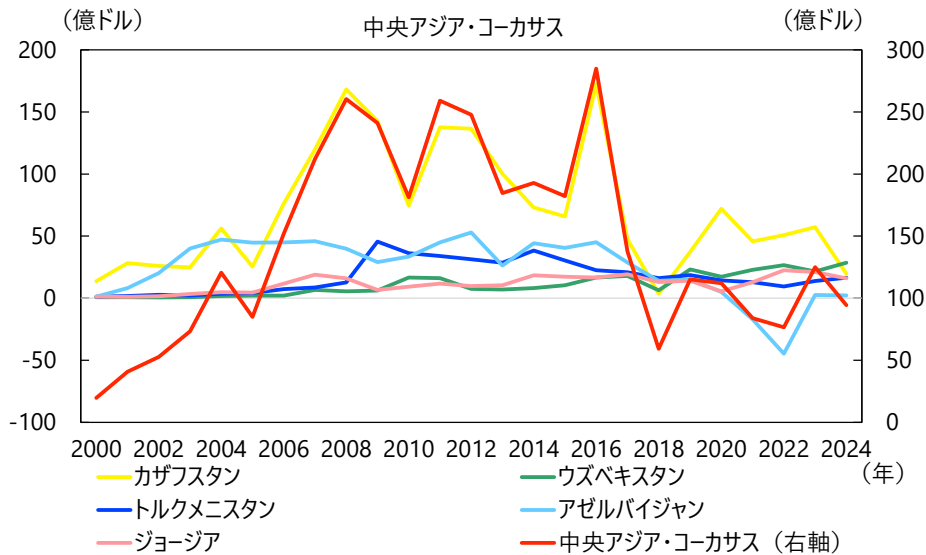
第1-3-4-8図は、対内FDIの動向を示している。カザフスタンは2000年代中盤から2010年代中盤にかけて他と比較してより多くのFDIが流入していた。足下ではいずれの国も同程度となっている。

第1-3-4-7図 中央アジア・コーカサスの総資本形成比率



備考：「中央アジア・コーカサス」については、IMF「WEO」の総資本形成比率から名目GDPでウェイト付けした上で推計。2022-2025年平均の値。トルクメニスタンはデータ欠損。IMF「WEO」のデータ制約により、カザフスタンの実績は2023年までであり、2024年以降は推計値。それ以外の国は2024年までが実績であり、2025年は推計値。  
資料：IMF「WEO」（2025年10月）から作成。

第1-3-4-8図 中央アジア・コーカサスの対内FDI



備考：「中央アジア・コーカサス」については、本章で定義した地域区分の国及び地域一覧を合算し推計。2026年1月8日時点データ。  
資料：世界銀行から作成。

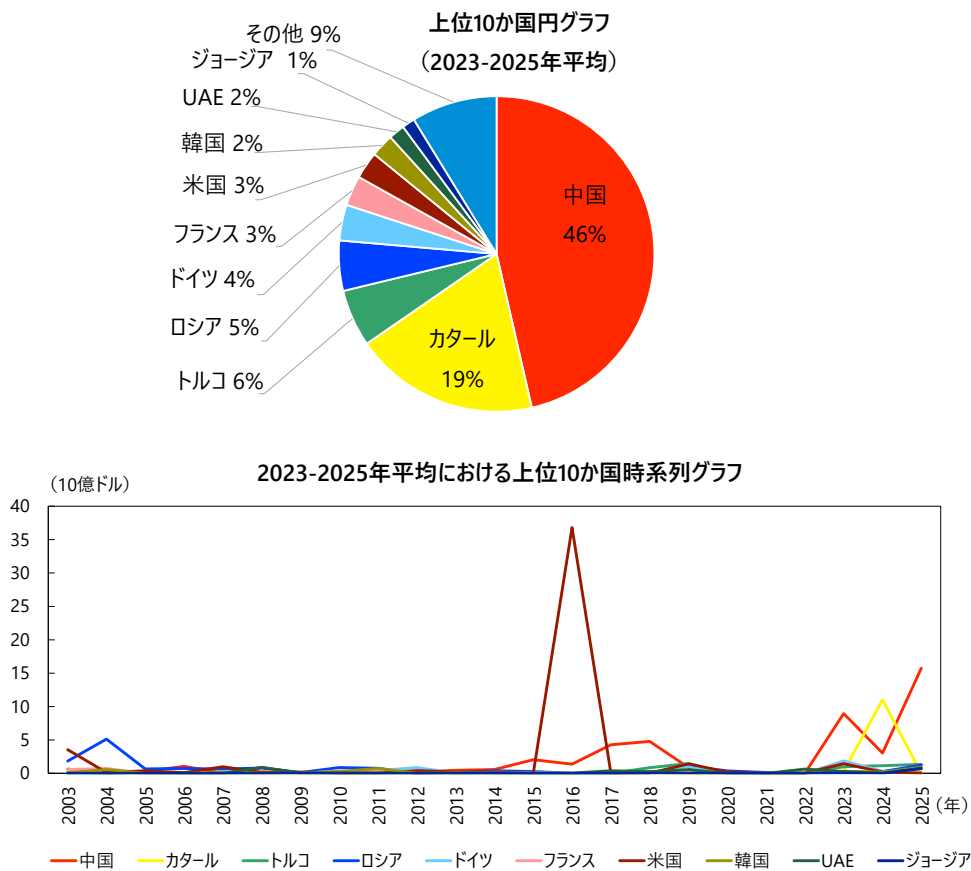
5. グリーンフィールド FDI

fDi Markets のデータを用いて、カザフスタン、ウズベキスタンのグリーンフィールド FDI の状況について確認する。

(1) カザフスタン

2023 年～2025 年平均で、カザフスタン向け FDI の上位 10 か国について見ると、1 位：中国、2 位：カタール、3 位：トルコであった。他方、米国は 2016 年に巨額投資をしており、これは米国の石油企業とカザフスタン等の合弁企業による油田拡張計画によるものと見られる（第 1-3-4-9 図）。

第 1-3-4-9 図 カザフスタンの対内 FDI 上位 10 か国

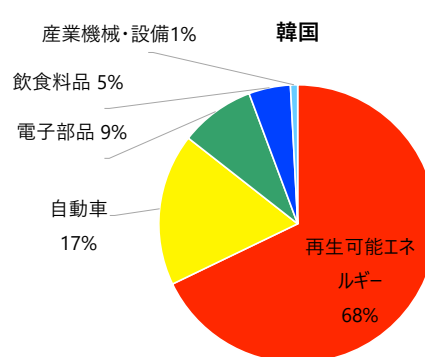
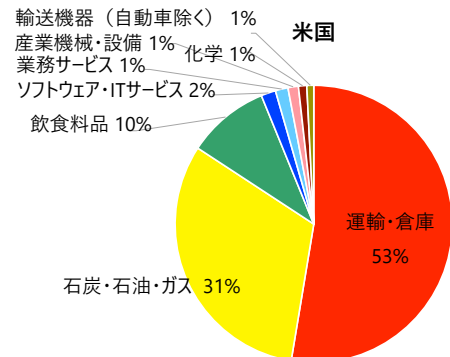
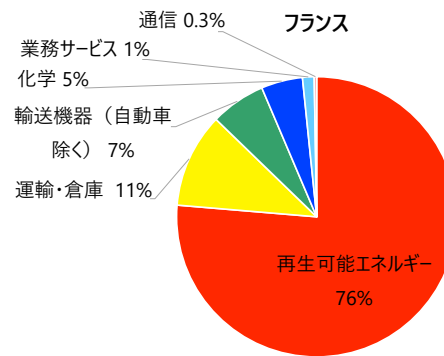
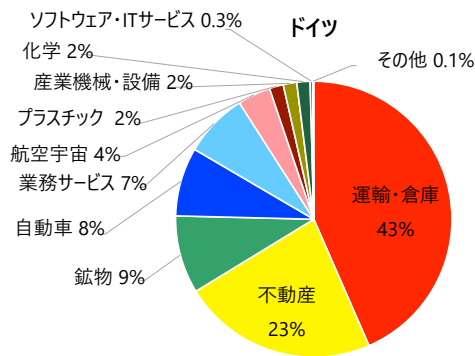
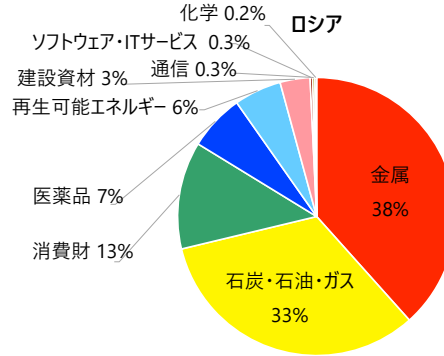
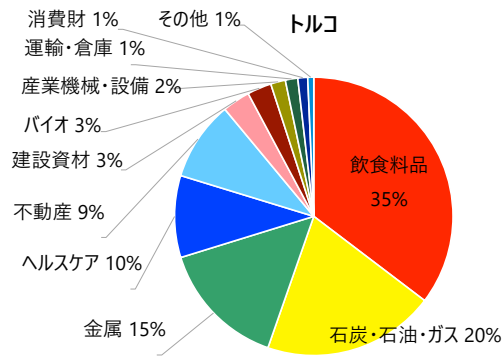
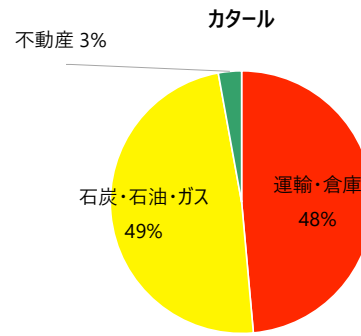
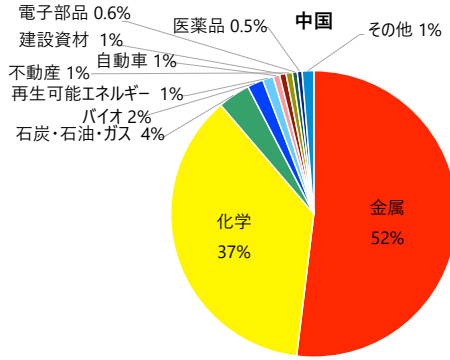


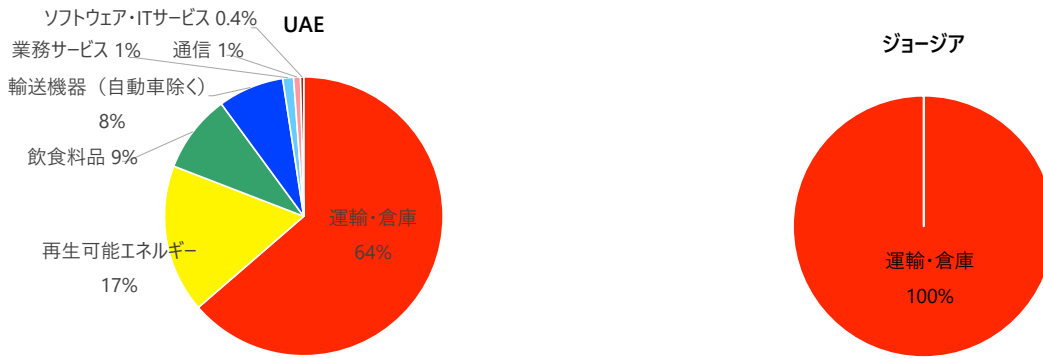
備考：円グラフは 2023～2025 年平均。2025 年は 1 月から 11 月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和 7 年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」から作成。

上記のカザフスタン対内 FDI 上位 10 か国について、国別にセクター内訳を見ると、中国は金属、化学、カタールは運輸・倉庫、石炭・石油・ガスに対する投資が多くなっている。トルコは飲食料品、石炭・石油・ガス、金属、ヘルスケア等幅広いセクターに投資していることが分かる（第 1-3-4-10 図）。

第1-3-4-10 図 カザフスタンの対内 FDI 上位 10 か国内訳



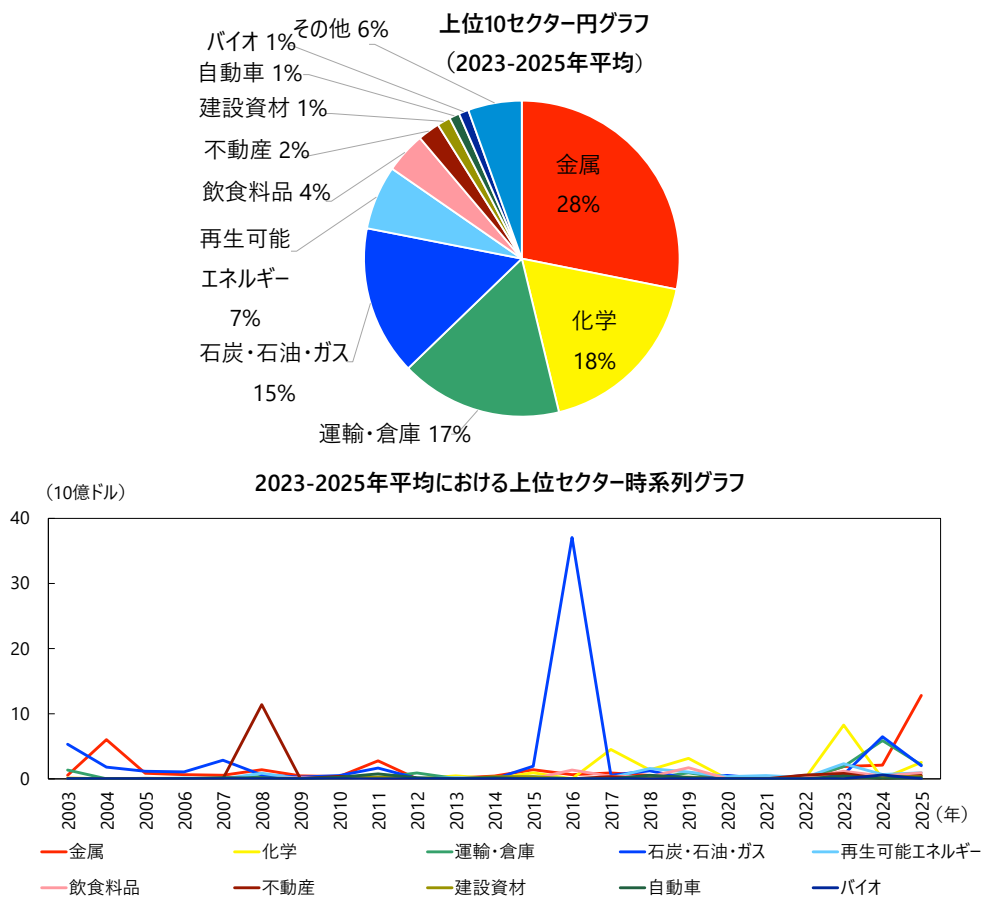


備考：円グラフは 2023～2025 年平均。2025 年は 1 月から 11 月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和 7 年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

2023 年～2025 年平均で、カザフスタン向け FDI の上位 10 セクターについて見ると、1 位：金属、2 位：化学、3 位：運輸・倉庫の順に多い。2016 年における石炭・石油・ガスセクターへの巨額投資は、上述の合弁企業によるものである（第 1-3-4-11 図）。

第 1-3-4-11 図 カザフスタンの対内 FDI 上位 10 セクター

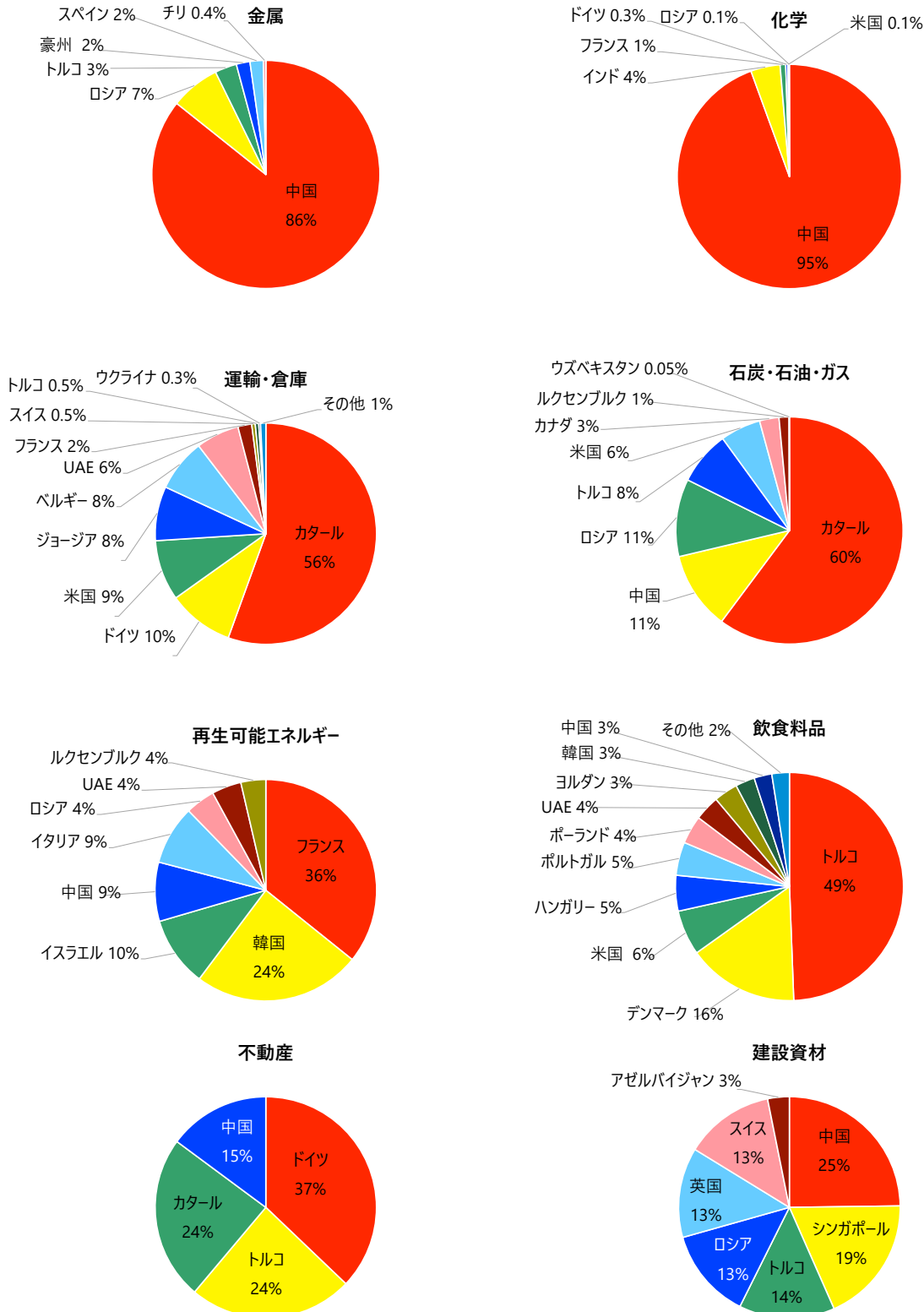


備考：円グラフは 2023～2025 年平均。2025 年は 1 月から 11 月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和 7 年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のカザフスタン対内 FDI 上位 10 セクターについて、セクター別に投資国の内訳を見ると、金属、化学では中国、運輸・倉庫、石炭・石油・ガスセクターではカタールのシェアが大きい。他方、再生可能エネルギーセクターでは、比較的多くの国が投資を行っていることが分かる（第 1-3-4-12 図）。

第 1-3-4-12 図 カザフスタンの対内 FDI 上位 10 セクター内訳





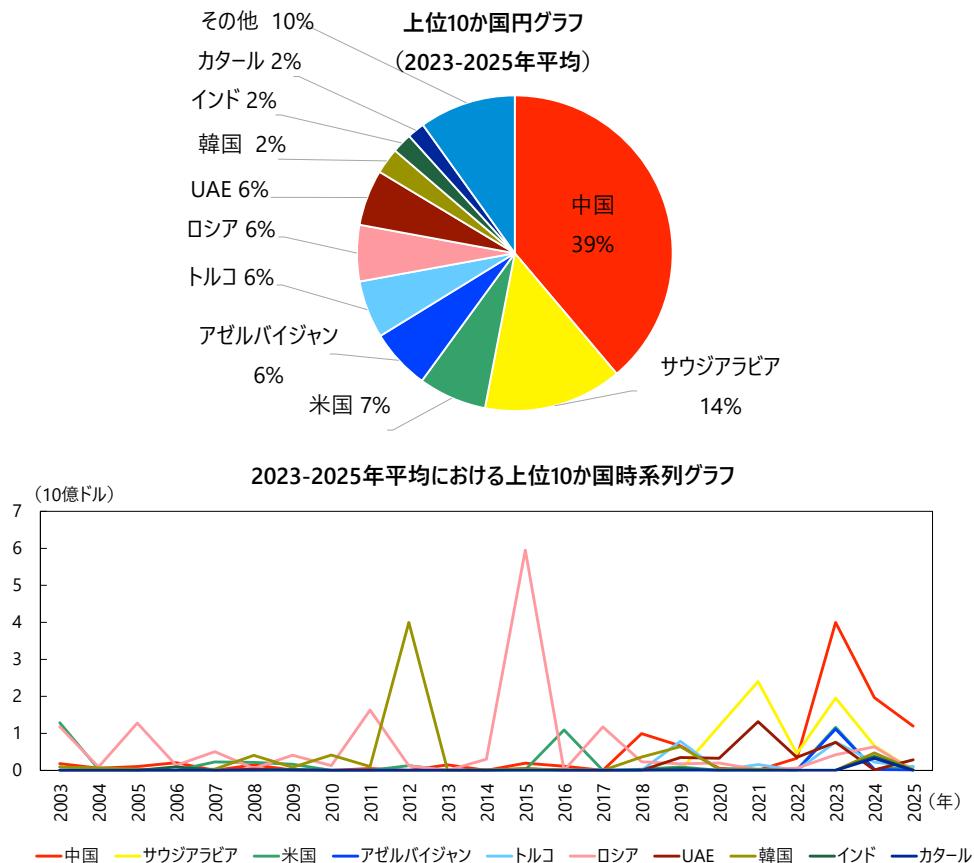
備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。運輸・倉庫セクターにおいて、キプロス、リトアニア、マレーシアはウクライナと同じ金額であったが、表記上その他に含めている。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

## (2) ウズベキスタン

2023年～2025年平均で、ウズベキスタン向けFDIの上位10か国について見ると、1位：中国、2位：サウジアラビア、3位：米国となっている（第1-3-4-13図）。

第1-3-4-13図 ウズベキスタンの対内FDI上位10か国

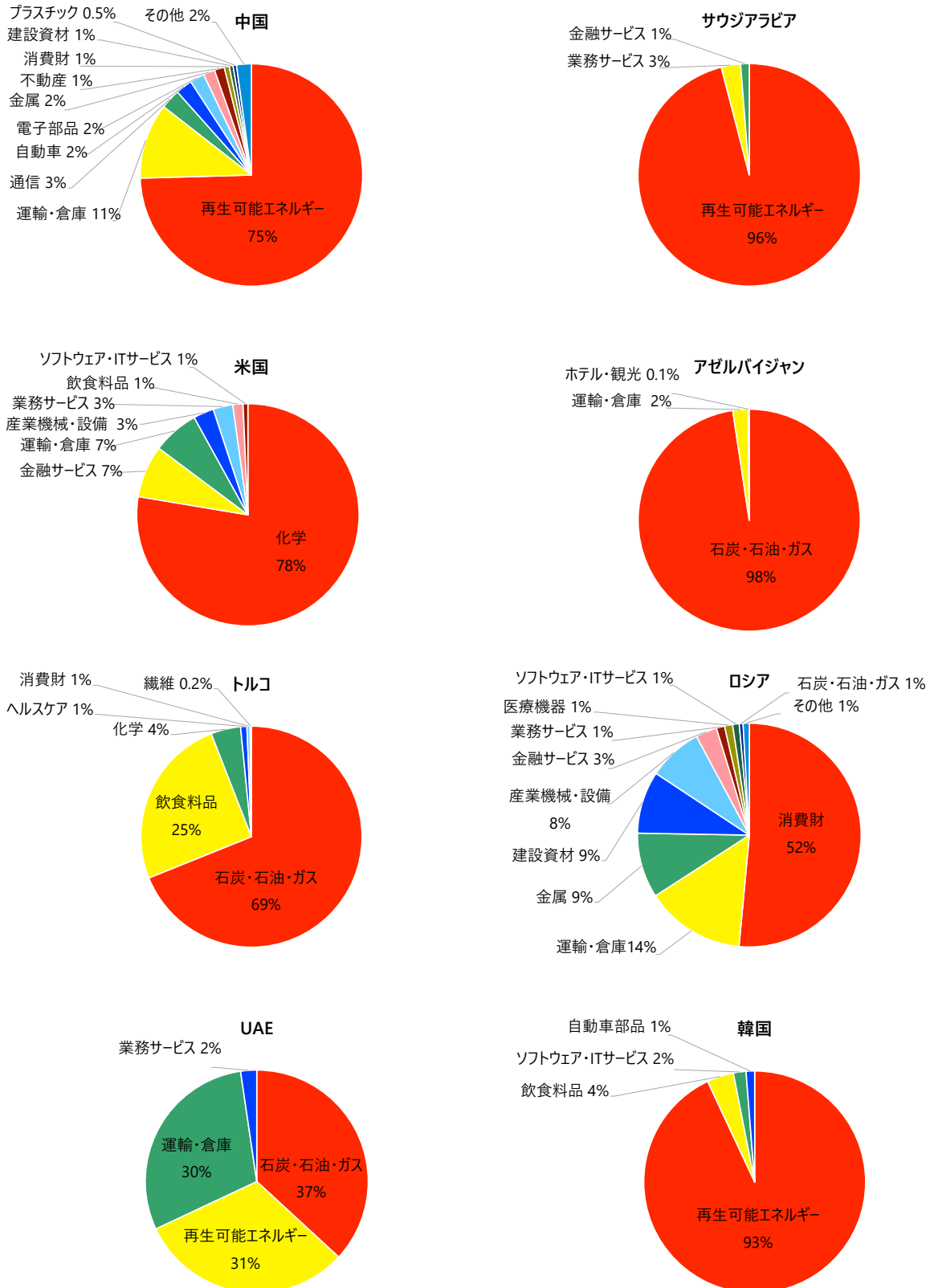


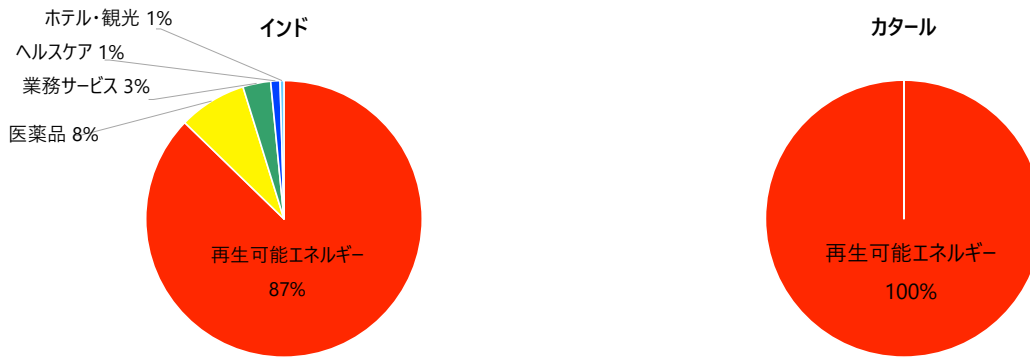
備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のウズベキスタン対内 FDI 上位 10 か国について、国別にセクター内訳を見ると、中国、サウジアラビアともに再生可能エネルギー、米国は化学セクターに対する投資が多い（第 1-3-4-14 図）。

第 1-3-4-14 図 ウズベキスタンの対内 FDI 上位 10 国内訳



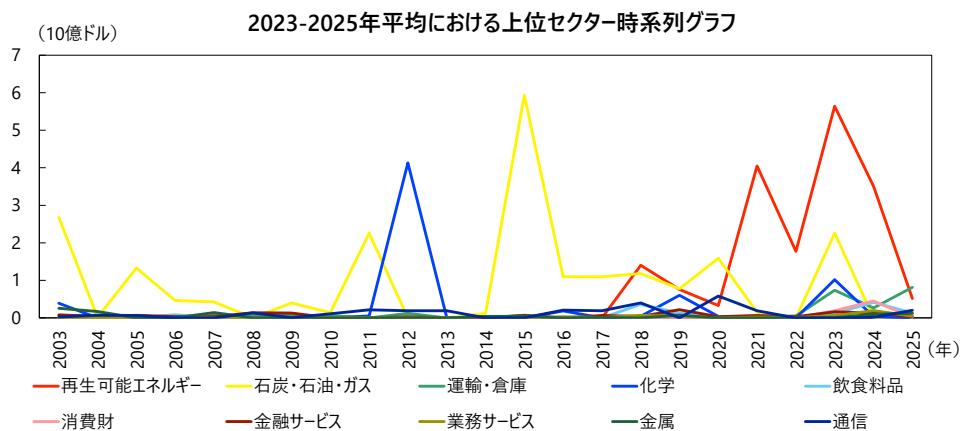
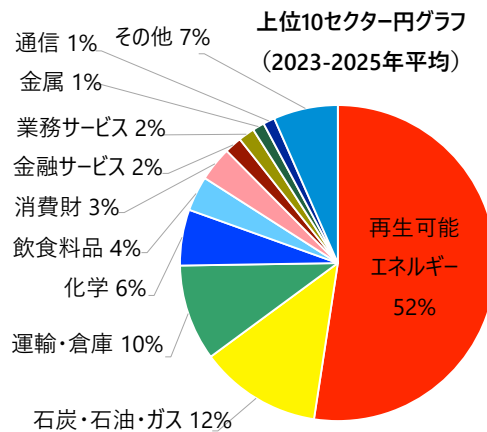


備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

2023年～2025年平均で、ウズベキスタン向けFDIの上位10セクターについて見ると、1位：再生可能エネルギー、2位：石炭・石油・ガス、3位：運輸・倉庫の順に多い。特に再生可能エネルギーは2017年頃から継続的な投資がなされている（第1-3-4-15図）。

第1-3-4-15図 ウズベキスタンの対内FDI上位10セクター

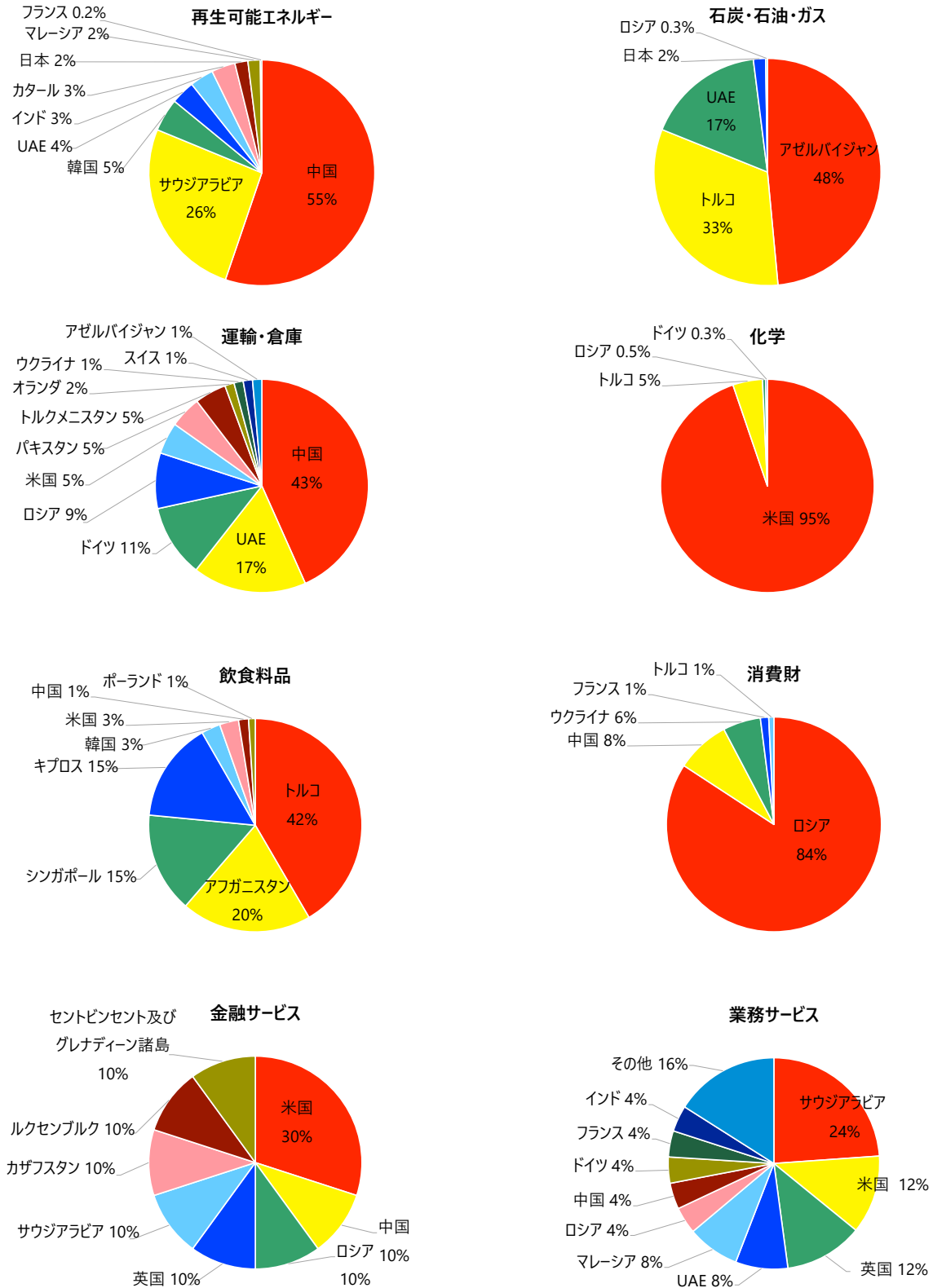


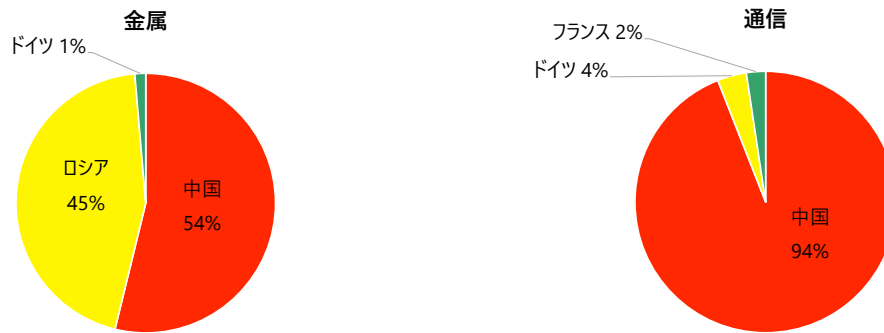
備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のウズベキスタン対内 FDI 上位 10 セクターについて、セクター別に投資国の内訳を見ると、再生可能エネルギー、運輸・倉庫、金属、通信では中国、石炭・石油・ガスではアゼルバイジャン、化学、金融サービスでは米国からの投資が多くなっている（第 1-3-4-16 図）。

第 1-3-4-16 図 ウズベキスタンの対内 FDI 上位 10 セクター内訳





備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は11月時点までのデータである。業務サービスセクターにおいて、ポーランド、カザフスタン、イタリア、フィンランドはインドと同じ金額であったが、表記上その他に含む。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」から作成。

## 6. FTA 協定

2020年以降の自由貿易協定等の状況を示したのが、第1-3-4-17表である<sup>54</sup>。カザフスタンはEAEU・セルビア自由貿易協定を2021年7月に発効している。これは、ロシア、ベラルーシ、カザフスタンがセルビアと締結している二国間FTAを統合し、かつ他のEAEU加盟国であるアルメニア、キルギスにも締結国を拡大するものである。ウズベキスタンは、トルコ・ウズベキスタン特惠貿易協定を2023年7月に発効している。ウズベキスタンからトルコには食品の品目で年間割当て枠内に限り関税を撤廃し、トルコからウズベキスタン向けには建設・電気設備関連の一部の品目で関税が半減する内容となっている。ジョージアは、2024年6月にアラブ首長国連邦・ジョージア包括的経済連携協定（CEPA）を発効している。両国間の非石油部門の貿易額にして90%以上がCEPAの枠組みで取り扱われ、そのうちの約95%で関税が撤廃又は軽減されることになる。これにより、両国間の非石油部門における貿易総額を5年以内に3倍以上の15億ドルに増やす目標を掲げている。

<sup>54</sup> JETRO「世界のFTAデータベース」、<https://www.jetro.go.jp/theme/wto-fta/ftalist/>。

第1-3-4-17表 中央アジア・コーカサスの自由貿易協定等（2020年～）

国	No	名称	形態	経緯
カザフスタン	1	EAEU・イラン自由貿易協定	自由貿易協定	○2018年5月署名 ○2019年10月発効 ○2021年11月恒久化に関する交渉を開始 ○2023年12月恒久的な協定に署名 ○2025年5月恒久的な協定発効
	2	カザフスタン・シンガポールサービス投資協定	その他	○2023年5月署名 ○2025年3月発効
	3	EAEU・セルビア自由貿易協定	自由貿易協定	○2019年10月署名 ○2021年7月発効
ウズベキスタン	1	トルコ・ウズベキスタン特惠貿易協定	特惠貿易協定	○2022年3月署名 ○2023年7月発効
	2	パキスタン・ウズベキスタン特惠貿易協定	特惠貿易協定	○2021年7月交渉開始 ○2022年3月署名 ○2023年3月部分的合意に基づき発効
トルクメニスタン	-	なし		
アゼルバイジャン	1	パキスタン・アゼルバイジャン特惠貿易協定	特惠貿易協定	○2021年1月交渉開始 ○2023年6月交渉完了 ○2024年7月署名 ○2024年12月発効
	2	アゼルバイジャン・トルコ特惠関税協定	特惠貿易協定	○2020年2月署名 ○2021年3月発効
ジョージア	1	アラブ首長国連邦・ジョージア包括的経済連携協定	自由貿易協定	○2021年12月交渉開始で合意 ○2022年9月第1回交渉 ○2022年12月第2回交渉 ○2023年3月交渉終了 ○2023年10月署名 ○2024年6月発効
	2	英国・ジョージア戦略的パートナーシップ協力協定	自由貿易協定	○2019年10月署名 ○2021年1月発効

備考：2026年4月取得データ。

資料：JETRO「世界のFTAデータベース」（2026年4月時点）から作成。